動物応用科学科 3 年　杉浦 義文

自分は幼稚園生ぐらいの頃から動物に興味を持っており、親や祖父母が買ってくれた色々な種類の動物図鑑をよく眺めていました。しかし、小学校から野球に熱中し始めたため一旦動物に対する熱は冷めたかのように思われましたが、高校に入学するころになると野生動物を本格的に学びたいという気持ちが強くなってきました。なぜこのとき、野生動物を学びたいという考えに至ったのかは自分自身よく覚えていないのですが、暇なときは家の周りの森を散策したり、動物関係のテレビ番組はほとんどチェックしていたりと動物や自然への関心は野球をしながらも常にあったので必然的だったのかもしれません。

そうした考えを持ち始めていたころ、仲間と将来について話をしていた時に自分が野生動物の保護に携わりたいと言うと「なんで野生動物を保護しなきゃいけないんだ？」という質問がとんできました。自分は野生動物の絶滅は回避すべきことであり、生物の多様性は新しい医薬品の開発など人間社会に貢献するからと本に書いてあるようなことを言うと友人はさらに「じゃあ、人間の役に立たない動物の保護はどう説明する？」と返してきました。このとき、うまく言葉が出ず「そんなこと説明しなくてもなんとなくわかるだろ」と思いつつ、自分の中でも納得する答えがありませんでした。

このとき自分が思った“なんとなくわかる”という気持ちは動物や自然が好きな人はわかることなのかもしれませんが、自然や動物にさして興味のない人にとっては友人と同じような感覚だと思います。そして、このような人たちの方が世間には多くいることと思います。友人の言った「なぜ野生動物を保護するか」ということは自分のなかで大きな課題となりました。これからの研究室での活動を通していく中で、まず自分の思っていた“なんとなく”をより明確なものにしていき、それを多くの人々に伝えられるまでにしていきたいと思います。

自分の卒業研究は、千葉県南房総に定着してしまった小型のシカ科の外来種・キョンについてやることになりました。自分の地元に貢献できる喜びと自分の希望通りのテーマを与えてくださった高槻先生に感謝しています。外来種の問題はアライグマやタイワンザルなど各地で起こっています。自分はこの問題にキョンという動物からアプローチしていきますが、以前高槻先生がおっしゃっていたようにキョンのスペシャリストになることはもちろん、外来種問題のスペシャリストになれればと思います。また、外来種は根絶が最大の目標であると考えますが、なかには殺すなという人やほっとけという人もいるかと思います。こうした時になぜ野生動物を守るのかということを相手が納得するように説明できれば、外来種問題の解決に近づくのではと思います。

すこし大きいことを言ったような気もしますが、自分にプレッシャーをかける意味で書かせてもらいました。この抱負を実現するために日々精進していきたいと思います。